

## 令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

### 1. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

本校において展開している令和4年度の特別の教育課程においては、課程の編成および実施計画に基づいて計画通りに実施しており、年1回の保護者アンケートにより、保護者の皆様からの声を把握している。

### 2. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

開校初年度から、英語に特化した特色のある学校を目指した本校においては、英語の授業だけでなく、体育・音楽・図工・情報の授業において英語イマージョン授業を実践することによって、「聴く」という英語習得上に重要な学びの姿勢が育ちつつある。学習内容は日本で学ぶべき教科目標に沿っているため学習内容に不足はなく、その上で、更に、各学年に外国人教員が所属しているため、授業中だけでなく、どのタイミングでもコミュニケーションをとれる環境であるため授業に関わる会話も英語でやりとりされる場面が多く見られ、英語力向上の効果として表れている。

課題としては、英語力の差が児童間にあるため、児童への英語での語り、指導の語彙のレベルや使い方を全員が分かる（或いは分かろうとする）レベルを保つことに指導者が留意して授業を展開していくことである。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校は、目指す児童像において「挑戦・協働・貢献」の出来る子を目指し、全ての教育カリキュラムにおいて、あるべき姿として位置付けている。これは、世界を視野に入れ「自主自立や共同の精神を持って活動すること」「進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」等、英語イマージョン授業を通してリンクさせているねらいである。また、そのねらいに沿った行事として、道内の留学生を学級ごとに1日招待し、その留学生の国や文化・習慣を学ぶ「ワールドデイ」の取り組みや1年間学んできた英語を保護者や他学年の児童に発表する「英語パフォーマンス」の取り組みを行い、学校教育の目標達成のために取り組んでいる。

これらは、日常や毎年の実践の積み重ねと経験が大事であるので、目の前の本校児童の持つ力を掴みながら、効果的な良い変革を今後も展開していきたい。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・児童の個々の英語力を検定等でも実態把握していく
- ・英語授業を含めイマージョン授業教科の指導に関わり授業研究を定期的に進める
- ・英語を耳で聞き、英語で考え、英語で話し伝え、共感を持つ学習場面を意図的に組んでいく